

# **平成 29 年度土岐市財務書類**

- ・一般会計等
- ・全体会計
- ・連結会計

**平成 31 年 3 月**  
**土岐市総務部総務課**

## 目次

---

1. 地方公会計の整備促進について .....	2
2. 財務書類の説明 .....	3
3. 財務書類の作成について .....	4
3. 1. 財務書類の体系 .....	4
3. 2. 作成単位 .....	5
3. 3. 会計処理 .....	6
3. 4. 作成基準日 .....	6
3. 5. 注意点 .....	6
4. 勘定科目の説明 .....	7
4. 1. 貸借対照表 .....	7
4. 2. 行政コスト計算書 .....	9
4. 3. 純資産変動計算書 .....	10
4. 4. 資金収支計算書 .....	11
4. 5. 財務書類作成基準 .....	12
5. 財務4表 .....	13
5. 1. 財務4表（一般会計等） .....	14
5. 1. 1. 貸借対照表 .....	14
5. 1. 2. 行政コスト計算書 .....	16
5. 1. 3. 純資産変動計算書 .....	18
5. 1. 4. 資金収支計算書 .....	19
5. 2. 財務4表（全体会計） .....	21
5. 2. 1. 貸借対照表 .....	21
5. 2. 2. 行政コスト計算書 .....	22
5. 2. 3. 純資産変動計算書 .....	23
5. 2. 4. 資金収支計算書 .....	24
5. 3. 財務4表（連結会計） .....	25
5. 3. 1. 貸借対照表 .....	25
5. 3. 2. 行政コスト計算書 .....	26
5. 3. 3. 純資産変動計算書 .....	27
5. 3. 4. 資金収支計算書 .....	28

## 1. 地方公会計の整備促進について

---

地方公共団体の会計は、国の会計と同じく、住民から徴収された対価性のない税財源の配分を、議会における議決を経た予算を通じて事前統制の下で行うという点で、営利を目的とする企業会計とは根本的に異なっています。すなわち、税金を活動資源とする国・地方公共団体の活動は、国民・住民福祉の増進等を目的としており、予算の議会での議決を通して、議会による統制の下に置かれているため（財政民主主義）、国・地方公共団体の会計では、予算の適正・確実な執行に資する観点から、現金の授受の事実を重視する現金主義が採用されているところです。

その一方で、国・地方を通じた厳しい財政状況の中で、財政の透明性を高め、国民・住民に対する説明責任をより適切に果たし、財政の効率化・適正化を図るために、地方公会計は、発生主義により、ストック情報やフロー情報を総体的・一覧的に把握することで、現金主義会計による予算・決算制度を補完するものとして整備が求められてきているところです。

具体的には、現金主義会計では見えにくいコストやストックを把握することで、中長期的な財政運営への活用の充実が期待できることや、そのような発生主義に基づく財務書類を現行の現金主義会計による決算情報等と対比させて見ることにより、財務情報の内容理解が深まるものと考えられます。

そこで、住民や議会等に対し、財務情報をわかりやすく開示することによる説明責任の履行と、資産・債務管理や予算編成、行政評価等に有効に活用することで、マネジメントを強化し、財政の効率化・適正化を図ることが挙げられること、また、地方公会計の整備は、個々の地方公共団体だけでなく、地方公共団体全体としての財務情報のわかりやすい開示という観点からも必要があるものとして、土岐市では平成27年度から、統一的な基準による財務書類を作成しています。

## 2. 財務書類の説明

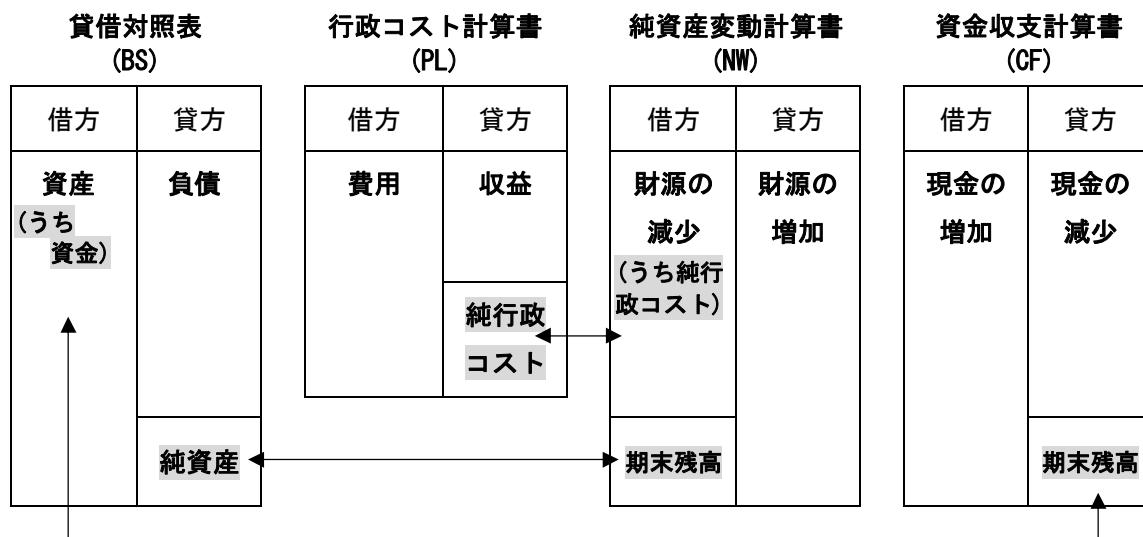
---

財務書類名	概要
貸借対照表	貸借対照表は、基準日時点における地方公共団体の財政状態（資産・負債・純資産の残高及び明細）を明らかにすることを目的として作成します
行政コスト計算書	行政コスト計算書は、会計期間中の地方公共団体の費用・収益の取引高を明らかにすることを目的として作成します。費用の中には、現金支出を伴わない減価償却費等も計上してあります。また、この計算書で計算した純行政コストは、1年間の行政サービスに掛かる経費を示し、純資産変動計算書の純行政コストとして計上されます
純資産変動計算書	純資産変動計算書は、会計期間中の地方公共団体の純資産の変動を明らかにすることを目的として作成します。この計算書で計算した本年度末純資産残高は、貸借対照表の純資産の部の金額と一致します
資金収支計算書	資金収支計算書は、地方公共団体の資金収支の状態、すなわち地方公共団体の内部者（首長、議会、補助機関等）の活動に伴う資金利用状況及び資金獲得能力を明らかにすることを目的として作成します。この計算書での収入及び支出は、貸借対照表の現金預金の増加と減少であり、その残高は貸借対照表の現金預金の金額と一致します

### 3. 財務書類の作成について

#### 3. 1. 財務書類の体系

財務書類の体系は、貸借対照表(BS)、行政コスト計算書(PL)、純資産変動計算書(NW)、資金収支計算書(CF)及びこれらの財務書類に関連する事項についての附属明細書とします。



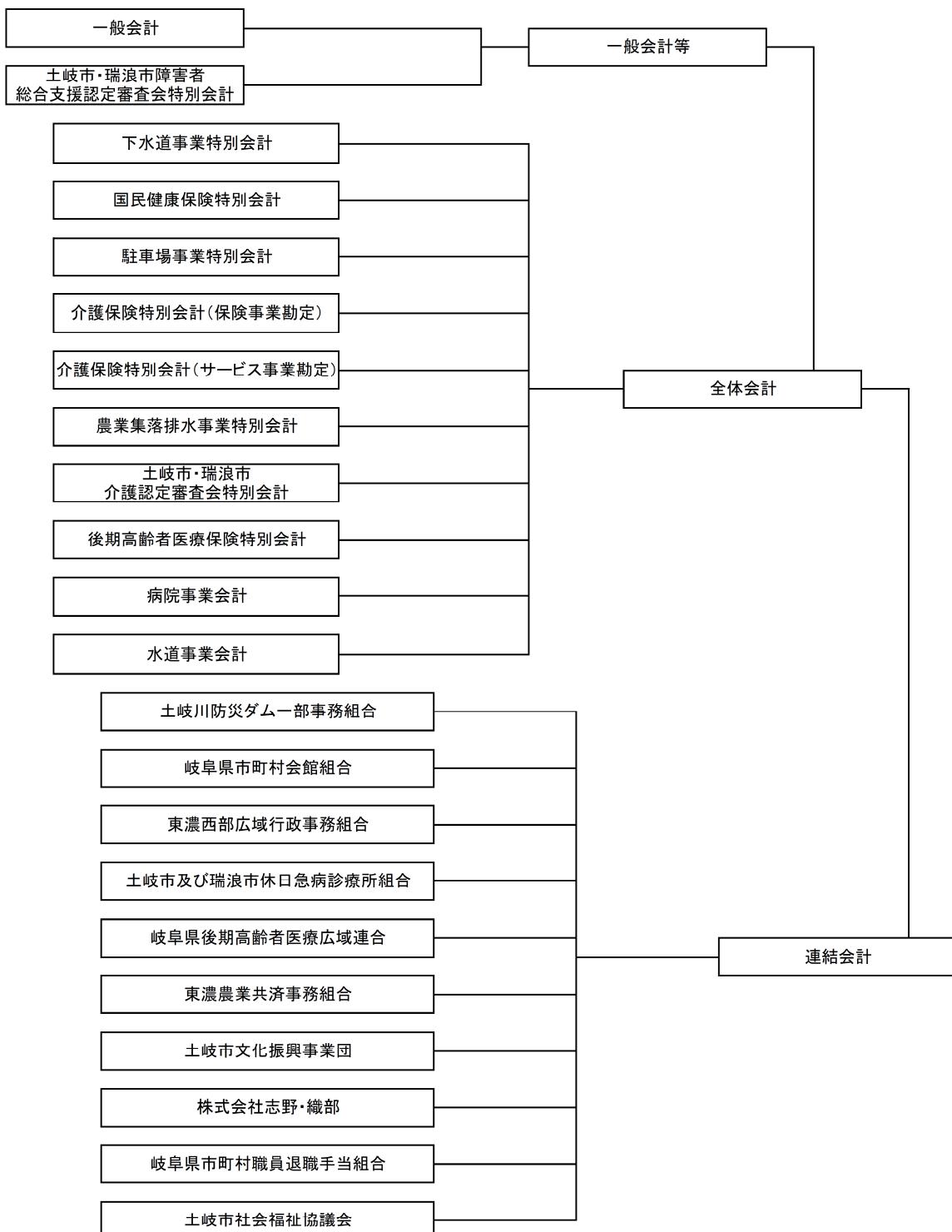
※1 貸借対照表の資産のうち「現金預金」の金額は、資金収支計算書の本年度末残高に本年度末歳計外現金残高を足したものと対応します。

※2 貸借対照表の「純資産」の金額は、純資産変動計算書の本年度末残高と対応します。

※3 行政コスト計算書の「純行政コスト」の金額は、純資産変動計算書に記載されます。

### 3. 2. 作成単位

作成単位は、一般会計等を基礎とし、さらに一般会計等に地方公営事業会計を加えた全体財務書類、全体財務書類に地方公共団体の関連団体を加えた連結財務書類とします。



### **3. 3. 会計処理**

---

現行の財務会計システムから歳入・歳出データを取得し、これを一括して複式仕訳に変換する期末一括仕訳を採用します。

### **3. 4. 作成基準日**

---

財務書類の作成基準日は、会計年度末（3月31日）とします。ただし、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数とします。

### **3. 5. 注意点**

---

- ・各財務書類は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。科目の内訳を一部省略しています。
- ・各科目の四捨五入の単位未満の表示は次のとおりです。  
「0」・・・四捨五入の結果、単位未満のもの 「-」・・・金額が存在しないもの
- ・貸借対照表の流動・固定の区分は、1年を超えて入金及び支払いがあるものを固定資産・固定負債にし、1年内のものを流動資産・流動負債とします。また、固定資産・固定負債から配列します。
- ・行政コスト計算書には、発生主義会計を取り入れ減価償却費、退職手当引当金等の現金支出を伴わない費用も計上しています。

## 4. 勘定科目の説明

### 4. 1. 貸借対照表

資産の部		
固定資産		
	有形固定資産	
事業用資産	公共サービスに供されている資産でインフラ資産以外の資産（例：庁舎、学校、公民館、公営住宅、福祉施設など）	
インフラ資産	社会基盤となる資産（例：道路、橋、公園、上下水道施設など）	
物品	業務に使用する備品、機械器具や自動車など	
無形固定資産		
その他	商標権、知的財産権など	
投資その他の資産		
投資及び出資金	有価証券、出資金、出えん金など	
投資損失引当金	連結対象団体への出資金や保有株式の実質価格が著しく低下した場合に見込まれる低下額	
長期延滞債権	貸付金・地方税・使用料等の収入未済額のうち、前年度以前のもの合計額	
長期貸付金	奨学金等で返済が翌々年度以降に予定されているもの	
基金	翌々度以降に取り崩しが予定されている特定目的基金	
徴収不能引当金	長期延滞債権や長期貸付金で将来の回収不能見込額（不能欠損額）を見積もった額	
流動資産		
現金預金	手許現金や預貯金など	
未収金	地方税や使用料等で今年度に発生した収入未済額	
短期貸付金	奨学金等で返済が翌年度に予定されているもの	
基金		
財政調整基金	年度間の財源不足に備えるため、決算剰余金などを積み立て、財源が不足する年度に活用する目的の基金	
減債基金	翌年度の地方債の償還に充当する目的の基金	
棚卸資産	売却目的で保有している資産	
徴収不能引当金	未収金や短期貸付金で将来の回収不能見込額（不納欠損額）を見積もった額	

負債の部	
固定負債	支払期限の到来が 1 年超の負債及び将来発生する可能性がある支出の見積額
地方債	有形固定資産の形成等の財源のために国や銀行などから借り入れた地方債のうち、償還期限の到来が 1 年を超えるもの
	債務負担行為で、既に確定債務とみなされるもので、1 年以内の支払予定額を除いたもの
	年度末に全職員が自己都合で退職したと仮定して算出した退職金の総額から退職手当組合積立金を差し引いた額
	履行すべき額が確定していないが、将来発生する可能性のある損失保証債務の見込額
	上記以外の固定負債（リース負債等）
流動負債	1 年以内に返済や支払いを要するものや既に支払義務が確定しているもの
未払金	国や銀行などから借り入れた地方債のうち、1 年以内に償還予定のもの
	債務負担行為で、既に確定債務とみなされるもので、1 年以内の支払予定のもの
	継続して役務の提供を受けている場合、基準日時点において既に提供された役務に対して未だその対価の支払いを終えてないもの
	基準日時点において、代金の納入は受けているが、これに対する義務の履行を行っていないもの
	継続して役務の提供を行う場合、基準日時点において未だ提供していない役務に対して支払いを受けたもの
	職員に対する翌年度支給の賞与のうち、本年度の勤務に起因して発生する分の見込額
	基準日時点における第三者からの預り分
	上記以外の 1 年以内に返済や支払いを予定している負債（翌年度支払い予定のリース負債等）
純資産の部	
固定資産等形成分	資産形成のために充当した資源の蓄積をいい、原則として金銭以外の形態（固定資産等）で保有されるもの
余剰分（不足分）	地方公共団体で費消可能な資源の蓄積（不足分）をいい、原則として金銭の形態で保有されるもの。不足の場合は、不足分として計上

## 4. 2. 行政コスト計算書

経常費用		毎会計年度に経常的に発生する費用
業務費用		毎会計年度に経常的に発生する対価性費用
人件費		議員歳費、職員給与などの人にかかる費用
	職員給与費	職員等に対し勤労の対価として支払われる費用
	賞与等引当金繰入額	職員に対する翌年度支給の賞与のうち、本年度の勤務に起因して発生する分の見込額
	退職手当引当金繰入額	退職手当引当金の当年度発生額。具体的には、年度末に全職員が自己都合で退職したと仮定して算出した退職金の総額から退職手当組合積立金を差し引いた額
	その他	報酬等として支払われる費用（議員報酬や各組織の委員報酬、及び臨時雇賃金など）
物件費等		職員旅費、委託料、消耗品や備品購入費、施設等の維持修繕にかかる経費や減価償却費など
	物件費	職員旅費、委託料、消耗品や備品購入費など消費的性質の経費
	維持補修費	工事請負費のうち、施設等の維持補修にあたるもの
	減価償却費	償却資産の経年劣化に伴い発生する費用。具体的には当該償却資産の取得価額等を法定耐用年数で除した金額
	その他	上記以外の物件費等
その他の業務費用		支払利息、徴収不能引当金繰入額、過年度分過誤納還付など
	支払利息	地方債及び一時借入金等地方公共団体の借入金に対する利息
	徴収不能引当金繰入額	貸付金や未収金等で将来の回収不能見込額（不納欠損額）を見積もった額で当年度発生分
	その他	保険料、国庫支出金の返還金や過年度分過誤納還付等の上記以外の費用
移転費用		毎会計年度経常的に発生する非対価性費用
	補助金等	各種団体に対する政策目的の補助金等
	社会保障給付	児童手当や扶助費などの社会保障給付費用
	他会計への繰出金	他会計へ支出された費用
	その他	補償金や寄付等の上記以外の移転支出的な費用
経常収益		毎会計年度に経常的に発生する収益
	使用料及び手数料	施設利用料や住民票などを発行する際の手数料
	その他	過料、預金利子、売上収益など
純経常行政コスト		会計年度の経常的に発生した純費用。具体的には、経常費用から経常収益を差し引いた額

臨時損失		臨時に発生する費用
災害復旧事業費 資産除売却損 投資損失引当金繰入額 損失補償引当金繰入額 その他	災害復旧に関する費用	
	資産の売却による収入が、資産の帳簿価額を下回る場合の差額及び除却した資産の除却時の帳簿価額	
	本年度発生した連結対象団体への出資金や保有株式の実質価格が著しく低下した場合に見込まれる低下額	
	履行すべき額が確定していないが、将来発生する可能性のある損失保証債務の見込額の本年度発生分	
	上記以外に臨時に発生した費用	
臨時利益		臨時に発生する利益
資産売却益 その他	資産の売却による収入が帳簿価額を上回る場合の差額	
	上記以外の臨時に発生した収入の利益部分	
純行政コスト		会計年度の全ての費用から収益を差し引いた純費用。具体的には、純経常行政コストに臨時損失を足して臨時利益を加えた額

#### 4. 3. 純資産変動計算書

前年度末純資産残高		前年度末の純資産の金額
	純行政コスト	行政コスト計算書の収支戻である純行政コストを計上
	財源	税収等及び国県等補助金
	税収等	地方税、地方交付税、地方譲与税など
	国県等補助金	国庫支出金及び都道府県支出金など
	固定資産等の変動(内部変動)	内部変動合計額
	有形固定資産等の増加	有形・無形固定資産の形成による保有資産の増加額または有形・無形固定資産の形成の為の支出した額
	有形固定資産等の減少	有形・無形固定資産の減価償却費相当額及び除売却による減少分または有形・無形固定資産の売却時の元本分と除売却相当額及び減価償却相当額
	貸付金・基金等の増加	貸付金・基金等の形成による保有資産の増加額または新たな貸付金・基金等のために支出した金額
	貸付金・基金等の減少	貸付金の償還及び基金の取崩等による減少額または貸付金の償還収入及び基金の取崩収入相当額
	資産評価差額	有価証券等の評価差額
	無償所管替	無償で譲渡または取得した固定資産の評価額など
	その他	上記以外の純資産及びその内部構成の変動
本年度末純資産残高		本年度末の純資産の額(貸借対照表「純資産」と一致)

#### 4. 4. 資金収支計算書

業務活動収支		市政を運営する上での業務活動に係る収入及び支出
業務支出		市政を運営する上で、毎年度継続的に支出されるもの
業務費用支出		業務費用に係る支出
人件費支出		議員歳費、職員給料などの支出
物件費等支出		物品の購入費、維持補修費などの支出
支払利息支出		地方債、借入金に係る支払利息の支出
その他の支出		上記以外の業務費用支出
移転費用支出		移転費用に係る支出
補助金等支出		補助金等に係る支出
社会保障給付支出		生活保護費などの社会保障給付費支出
他会計への繰出支出		他会計への繰出による支出
その他の支出		上記以外の移転費用支出
業務収益		市政を運営する上で、毎年度継続的に収入されるもの
税収等収入		市民税、固定資産税などの収入
国県等補助金収入		国庫支出金及び都道府県支出金などの収入
使用料及び手数料収入		使用料・手数料の収入
その他の収入		財産貸付収入、延滞金など上記以外の業務収益収入
臨時支出		市政を運営する上で、臨時に支出されるもの
災害復旧事業費支出		災害復旧事業費に係る支出
その他の支出		上記以外の臨時支出
臨時収入		市政を運営する上で、臨時に収入されるもの
業務活動収支		(業務支出) - (業務収益) + (臨時支出) - (臨時収入)
投資活動収支		市政を運営する上での投資活動に係る収入及び支出
投資活動支出		固定資産等の形成及び金融資産の形成に支出したもの
公共施設等整備費支出		有形固定資産等の資産形成に係る支出
基金積立金支出		基金積立の係る支出
投資及び出資金支出		投資及び出資金に係る支出
貸付金支出		貸付金に係る支出
その他の支出		上記以外の投資活動支出
投資活動収入		固定資産等の形成及び金融資産の形成に充てられた収入
国県等補助金収入		国県等補助金のうち投資活動支出の財源に充てられた収入
基金取崩収入		基金取崩に係る収入
貸付金元金回収収入		貸付金に係る元金回収収入
資産売却収入		資産売却による収入
その他の収入		上記以外の投資活動収入
投資活動収支		(投資活動支出) - (投資活動収入)

財務活動収支		市政を運営する上での財務活動に係る収入及び支出
	財務活動支出	地方債や借入金などの元本の償還
	地方債償還支出	地方債に係る元本償還の支出
	その他の支出	上記以外の財務活動支出
	財務活動収入	地方債や借入金などの元本収入
	地方債発行収入	地方債の発行による収入
	その他の収入	上記以外の財務活動収入
財務活動収支		(財務活動支出) - (財務活動収入)
本年度資金収支額		(業務活動収支) + (投資活動収支) + (財務活動収支)
前年度末資金残高		前年度末の資金残高
本年度末資金残高		本年度末の資金残高 (前年度末資金残高 + 本年度資金収支額)

#### 4. 5. 財務書類作成基準

---

総務省などから公表された以下の作成基準、手法に準拠して作成しました。

- ・新地方公会計制度研究会報告書
- ・新地方公会計制度実務研究会報告書
- ・「地方公共団体財務書類作成にかかる基準モデル」及び「地方公共団体財務書類作成にかかる総務省方式改訂モデル」に関するQ & A
- ・地方公会計の活用の促進に関する研究会報告書
- ・新地方公会計モデルにおける資産評価実務手引
- ・新地方公会計モデルにおける連結財務書類作成実務手引
- ・地方公共団体における財務書類の活用と公表について
- ・資産評価及び固定資産台帳整備の手引き
- ・財務書類作成要領
- ・連結財務書類作成の手引き
- ・Q & A集

## 5. 財務 4 表

---



## 5. 1. 財務4表（一般会計等）

### 5. 1. 1. 貸借対照表

貸借対照表(BS)

(単位:千円)

科目名	金額	構成比	科目名	金額	構成比
<b>【資産の部】</b>			<b>【負債の部】</b>		
固定資産	104,375,258	96.38%	固定負債	18,130,390	16.74%
有形固定資産	96,969,420	89.54%	地方債	13,637,024	12.59%
事業用資産	53,267,501	49.19%	長期未払金	-	-
土地	27,196,928	25.11%	退職手当引当金	4,484,195	4.14%
建物	21,338,887	19.70%	損失補償等引当金	-	-
工作物	2,777,281	2.56%	その他	9,171	0.01%
その他	48,633	1.76%	流動負債	2,012,613	1.86%
建設仮勘定	1,905,771	0.04%	1年内償還予定地方債	1,569,016	1.45%
インフラ資産	42,612,670	39.35%	未払金	-	-
土地	5,186,920	4.79%	未払費用	-	-
建物	427,653	0.39%	前受金	-	-
工作物	35,816,488	33.07%	前受収益	-	-
その他	231,932	0.21%	賞与等引当金	267,084	0.25%
建設仮勘定	949,678	0.88%	預り金	173,892	0.16%
物品	1,089,248	1.01%	その他	2,620	0.00%
無形固定資産	21,387	0.02%	負債合計	20,143,003	18.60%
投資その他の資産	7,384,451	6.82%	<b>【純資産の部】</b>		
流動資産	3,922,521	3.62%	固定資産等形成分	107,163,246	98.95%
現金預金	1,067,873	0.99%	余剰分(不足分)	-19,008,470	-17.55%
未収金	68,810	0.06%			
短期貸付金	-	-			
基金	2,787,988	2.57%			
棚卸資産	-	-			
その他	-	-			
徴収不能引当金	-2,151	0.00%	純資産合計	88,154,776	81.40%
<b>資産合計</b>	<b>108,297,779</b>	<b>100.00%</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>108,297,779</b>	<b>100.00%</b>

※記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

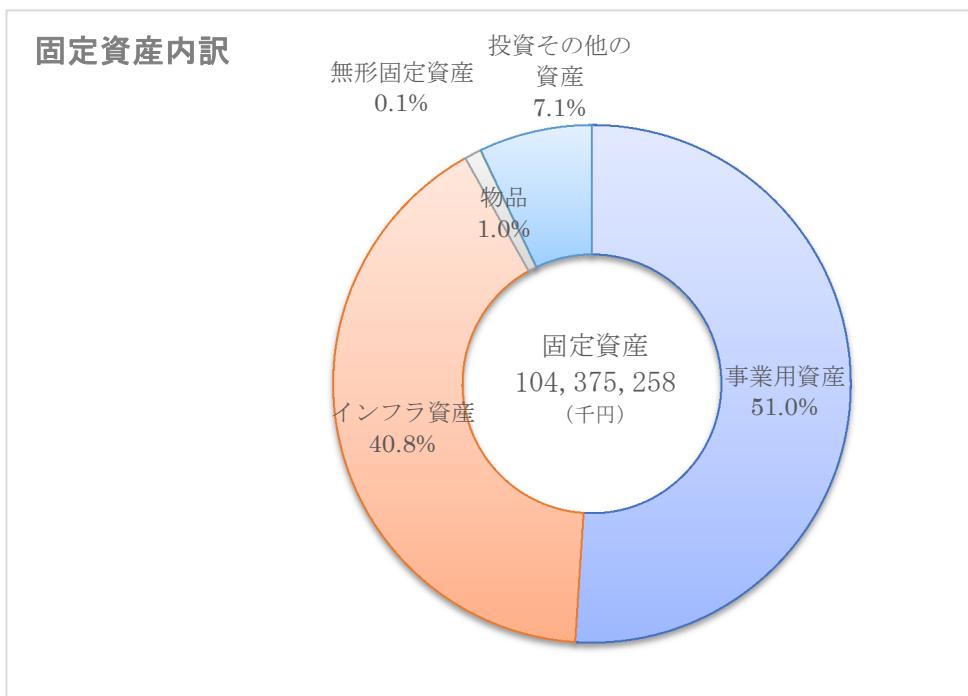
※科目の内訳を一部省略しています。

## (1) 資産の部

土岐市の一般会計等財務書類における資産の合計額は約1,082億円で、その多くは固定資産で構成されています。

### ①固定資産

固定資産は約1,044億円でその構成は、事業用資産が約533億円（49.2%）、インフラ資産が約426億円（39.4%）及び投資その他の資産約74億円（6.8%）等で構成されています。



### ②流動資産

流動資産は約39億円でその構成は、基金(短期)約28億円(2.6%)現金預金約11億円(1.0%)等で構成されています。

## (2) 負債の部

土岐市の一般会計等財務書類における負債の合計額は約201億円になります。

### ①固定負債

固定負債は約181億円でその構成は、地方債約136億円（12.6%）退職手当引当金約45億円（4.1%）等で構成されています。

### ②流動負債

流動負債は約20億円でその構成は、1年内償還予定地方債が約16億円（1.5%）賞与引当金約3億円（0.3%）及び預り金約2億円（0.2%）等で構成されています。

## 5. 1. 2. 行政コスト計算書

---

行政コスト計算書(PL)

(単位:千円)

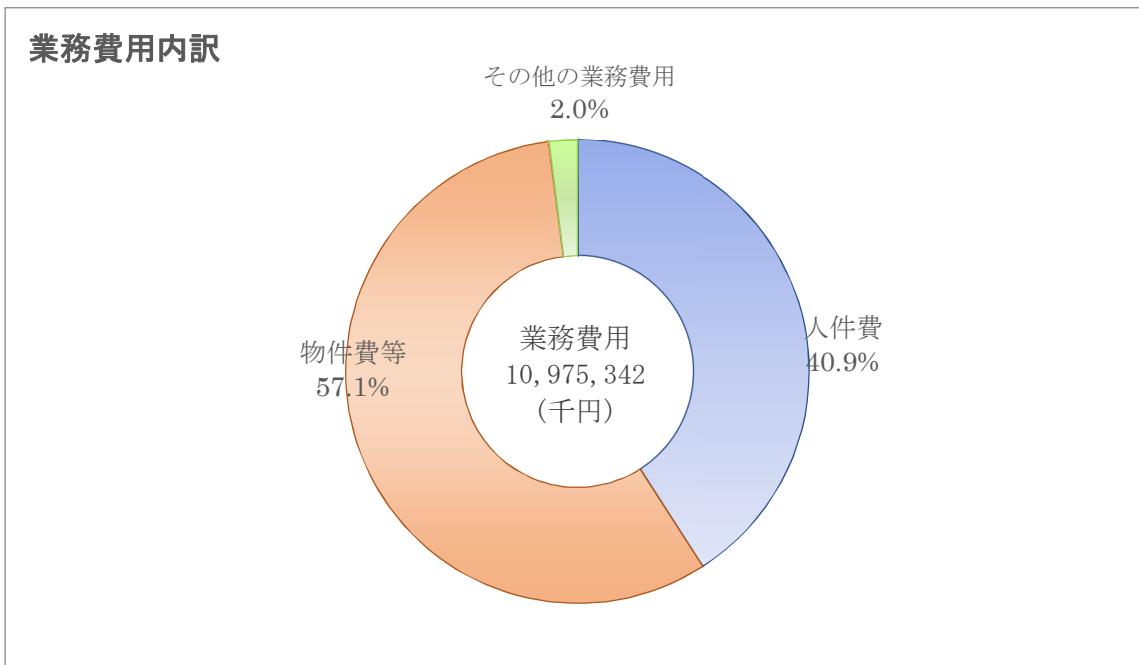
科目名	金額
経常費用	19,737,317
業務費用	10,975,342
人件費	4,489,311
職員給与費	3,035,393
賞与等引当金繰入額	267,084
退職手当引当金繰入額	145,288
その他	1,041,546
物件費等	6,272,199
物件費	2,660,292
維持補修費	496,512
減価償却費	3,115,394
その他	－
その他の業務費用	213,832
支払利息	100,135
徴収不能引当金繰入額	24,439
その他	89,258
移転費用	8,761,976
補助金等	2,626,289
社会保障給付	3,299,057
他会計への繰出金	2,805,701
その他	30,929
経常収益	781,532
純経常行政コスト	18,955,785
臨時損失	92,235
災害復旧事業費	52,768
資産除売却損	39,466
投資損失引当金繰入額	－
損失補償等引当金繰入額	－
その他	－
臨時利益	409,754
資産売却益	409,754
その他	－
純行政コスト	18,638,267

※記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

※科目の内訳を一部省略しています。

### (1) 業務費用

平成29年度の業務費用は約110億円で、主なものとして人件費約45億円（職員の給与等）物件費等約63億円（うち公共施設の減価償却費約31億円）となります。



### (2) 移転費用

平成29年度の移転費用は約88億円で、社会保障給付約33億円（扶助費、児童手当等）他会計への繰出金約28億円（特別会計・企業会計への繰出）及び補助金等約26億円等になります。

### (3) 純経常行政コスト

経常費用約197億円から、行政サービスの利用対価である施設の使用料や証明書の発行手数料などの経常収益約8億円を差し引いた純経常行政コストは約189億円になります。

臨時損益を加味した純行政コストは約186億円になります。

### 5. 1. 3. 純資産変動計算書

純資産変動計算書(NW)

(単位:千円)

科目名	合計	固定資産等 形成分	余剰分(不足分)
前年度末純資産残高	89,443,752	106,970,758	-17,527,006
純行政コスト(△)	-18,638,267		-18,638,267
財源	17,271,736		17,271,736
税収等	13,372,524		13,372,524
国県等補助金	3,899,212		3,899,212
本年度差額	-1,366,530		-1,366,530
固定資産等の変動(内部変動)		114,933	-114,933
有形固定資産等の増加		3,669,522	-3,669,522
有形固定資産等の減少		-3,349,173	3,349,173
貸付金・基金等の増加		925,129	-925,129
貸付金・基金等の減少		-1,130,545	1,130,545
資産評価差額	334	334	
無償所管換等	77,221	77,221	
その他	-	-	-
本年度純資産変動額	-1,288,976	192,488	-1,481,464
本年度末純資産残高	88,154,776	107,163,246	-19,008,470

※記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

行政コスト計算書により算出された純行政コスト 186 億円を財源（税収等、国県等補助金）約 172 億円で賄えず、本年度差額はマイナス約 14 億円になります。

本年度差額に、資産評価差額・無償所管換等が約 0.8 億円を加味した、本年度純資産変動額はマイナス約 13 億円となり、純資産が減少しました。

平成 29 年度は、過去世代及び現世代が積立てた純資産を取り崩していることになります。

## 5. 1. 4. 資金収支計算書

---

資金収支計算書(CF)

(単位:千円)

科目名	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	16,886,964
業務費用支出	7,669,791
移転費用支出	9,217,173
業務収入	17,806,694
臨時支出	52,768
臨時収入	－
業務活動収支	866,962
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	4,412,965
公共施設等整備費支出	3,656,421
基金積立金支出	661,544
投資及び出資金支出	－
貸付金支出	95,000
その他の支出	－
投資活動収入	1,822,356
投資活動収支	-2,590,609
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	1,443,523
財務活動収入	3,409,062
財務活動収支	1,965,539
本年度資金収支額	241,892
前年度末資金残高	652,089
本年度末資金残高	893,981

前年度末歳計外現金残高	172,978
本年度歳計外現金増減額	914
本年度末歳計外現金残高	173,892
本年度末現金預金残高	1,067,873

※記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

※科目の内訳を一部省略しています。

### (1) 業務活動収支

平成29年度の業務活動収支は、約9億円のプラスになりました。これは、土岐市が行う経常的な行政サービスに係る人件費、物件費等、各種補助金及び社会保障給付などの支出を、税収、国県等補助金及び使用料・手数料の業務収入で賄えていることになります。

### (2) 投資活動収支

平成29年度の投資活動収支は、マイナス約26億円となりました。投資活動支出が約44億円になり、その多くは公共施設等整備費支出で約36億円です。積極的な公共投資を行ったことになります。

### (3) 財務活動収支

平成29年度の財務活動収支は、約19億円のプラスになりました。これは地方債の発行収入が地方債の償還支出を大きく上回ったことになります。

上記3つの収支（業務活動収支・投資活動収支・財務活動収支）を合わせた本年度資金収支額は、約2億円のプラスになり、本年度末資金残高は、約9億円になりました。

また、歳計外現金残高約1億円を加えた、本年度末現金預金残高は、約11億円となりました。

## 5. 2. 財務4表（全体会計）

### 5. 2. 1. 貸借対照表

貸借対照表(BS)

(単位:千円)

科目名	金額	構成比	科目名	金額	構成比
【資産の部】			【負債の部】		
固定資産	151,251,627	95.51%	固定負債	36,404,404	22.99%
有形固定資産	141,672,110	89.46%	地方債等	26,709,448	16.87%
事業用資産	58,875,626	37.18%	長期未払金	—	—
土地	28,275,433	17.85%	退職手当引当金	4,484,195	2.83%
建物	25,809,704	16.30%	損失補償等引当金	—	—
工作物	2,834,174	1.79%	その他	5,210,761	3.29%
その他	50,543	1.20%	流動負債	4,606,892	2.91%
建設仮勘定	1,905,771	0.03%	1年内償還予定地方債等	3,145,300	1.99%
インフラ資産	80,563,136	50.87%	未払金	767,419	0.48%
土地	6,219,803	3.93%	未払費用	—	—
建物	2,371,163	1.50%	前受金	—	—
工作物	69,915,155	44.15%	前受収益	—	—
その他	1,048,062	0.66%	賞与等引当金	438,402	0.28%
建設仮勘定	1,008,952	0.64%	預り金	173,892	0.11%
物品	2,233,349	1.41%	その他	81,878	0.05%
無形固定資産	103,330	0.07%	負債合計	41,011,296	25.90%
投資その他の資産	9,476,187	5.98%	【純資産の部】		
流動資産	7,116,192	4.49%	固定資産等形成分	154,039,615	97.27%
現金預金	2,969,460	1.88%	余剰分(不足分)	-36,683,092	-23.16%
未収金	1,285,915	0.81%	他団体出資等分	—	—
短期貸付金	—	—			
基金	2,787,988	1.76%			
棚卸資産	74,087	0.05%			
その他	25,000	0.02%			
徴収不能引当金	-26,258	-0.02%			
繰延資産	—	—	純資産合計	117,356,523	74.10%
資産合計	158,367,819	100.00%	負債及び純資産合計	158,367,819	100.00%

※記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

※科目の内訳を一部省略しています。

## 5. 2. 2. 行政コスト計算書

---

行政コスト計算書(PL)

(単位:千円)

科目名	金額
経常費用	39,521,769
業務費用	21,027,160
人件費	8,117,426
職員給与費	5,810,429
賞与等引当金繰入額	437,848
退職手当引当金繰入額	145,288
その他	1,723,861
物件費等	11,970,130
物件費	6,281,486
維持補修費	687,907
減価償却費	5,000,737
その他	－
その他の業務費用	939,604
支払利息	434,405
徴収不能引当金繰入額	51,748
その他	453,450
移転費用	18,494,609
補助金等	5,861,561
社会保障給付	12,561,430
その他	71,618
経常収益	8,934,421
純経常行政コスト	30,587,348
臨時損失	256,032
災害復旧事業費	52,768
資産除売却損	39,466
損失補償等引当金繰入額	－
その他	163,798
臨時利益	409,758
資産売却益	409,754
その他	4
純行政コスト	30,433,622

※記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

※科目の内訳を一部省略しています。

## 5. 2. 3. 純資産変動計算書

---

純資産変動計算書(NW)

(単位:千円)

科目名	合計	固定資産等 形成分	余剰分(不足分)
前年度末純資産残高	117,845,093	154,530,446	-36,685,354
純行政コスト(△)	-30,433,622		-30,433,622
財源	29,867,498		29,867,498
税収等	21,762,654		21,762,654
国県等補助金	8,104,845		8,104,845
本年度差額	-566,124		-566,124
固定資産等の変動(内部変動)		-568,386	568,386
有形固定資産等の増加		4,844,338	-4,844,338
有形固定資産等の減少		-5,303,747	5,303,747
貸付金・基金等の増加		1,265,578	-1,265,578
貸付金・基金等の減少		-1,374,554	1,374,554
資産評価差額	334	334	
無償所管換等	77,221	77,221	
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	
その他	-	-	
本年度純資産変動額	-488,569	-490,831	2,262
本年度末純資産残高	117,356,523	154,039,615	-36,683,092

※記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

## 5. 2. 4. 資金収支計算書

資金収支計算書(CF)

(単位:千円)

科目名	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	34,710,245
業務費用支出	15,760,438
移転費用支出	18,949,806
業務収入	38,327,073
臨時支出	188,566
臨時収入	4
業務活動収支	3,428,266
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	5,644,510
公共施設等整備費支出	4,779,561
基金積立金支出	739,797
投資及び出資金支出	—
貸付金支出	118,660
その他の支出	6,491
投資活動収入	1,970,752
投資活動収支	-3,673,758
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	3,249,281
財務活動収入	3,900,662
財務活動収支	651,381
本年度資金収支額	405,890
前年度末資金残高	2,389,678
本年度末資金残高	2,795,567

前年度末歳計外現金残高	172,978
本年度歳計外現金増減額	914
本年度末歳計外現金残高	173,892
本年度末現金預金残高	2,969,460

※記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

※科目の内訳を一部省略しています。

## 5. 3. 財務4表（連結会計）

### 5. 3. 1. 貸借対照表

貸借対照表(BS)

(単位:千円)

科目名	金額	構成比	科目名	金額	構成比
<b>【資産の部】</b>			<b>【負債の部】</b>		
固定資産	152,768,997	95.13%	固定負債	36,750,550	22.88%
有形固定資産	141,838,126	88.32%	地方債等	26,709,448	16.63%
事業用資産	58,959,736	36.71%	長期未払金	-	-
土地	28,275,822	17.61%	退職手当引当金	4,814,108	3.00%
建物	25,888,696	16.12%	損失補償等引当金	-	-
工作物	2,838,899	1.77%	その他	5,226,994	3.25%
その他	50,547	1.19%	流動負債	4,701,975	2.93%
建設仮勘定	1,905,771	0.03%	1年内償還予定地方債等	3,145,300	1.96%
インフラ資産	80,632,418	50.21%	未払金	853,802	0.53%
土地	6,219,803	3.87%	未払費用	124	0.00%
建物	2,371,163	1.48%	前受金	791	0.00%
工作物	69,984,438	43.58%	前受収益	-	-
その他	1,048,062	0.65%	賞与等引当金	442,109	0.28%
建設仮勘定	1,008,952	0.63%	預り金	176,991	0.11%
物品	2,245,972	1.40%	その他	82,857	0.05%
無形固定資産	104,855	0.07%	<b>負債合計</b>	<b>41,452,525</b>	<b>25.81%</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>10,826,016</b>	<b>6.74%</b>	<b>【純資産の部】</b>		
流動資産	7,820,699	4.87%	固定資産等形成分	155,560,338	96.87%
現金預金	3,616,883	2.25%	余剰分(不足分)	-36,423,105	-22.68%
未収金	1,334,776	0.83%	他団体出資等分	-	-
短期貸付金	1,543	0.00%			
基金	2,789,798	1.74%			
棚卸資産	78,943	0.05%			
その他	25,016	0.02%			
徴収不能引当金	-26,260	-0.02%			
<b>繰延資産</b>	<b>62</b>	<b>0.00%</b>	<b>純資産合計</b>	<b>119,137,233</b>	<b>74.19%</b>
<b>資産合計</b>	<b>160,589,758</b>	<b>100.00%</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>160,589,758</b>	<b>100.00%</b>

※記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

※科目の内訳を一部省略しています。

### 5. 3. 2. 行政コスト計算書

---

行政コスト計算書(PL)

(単位:千円)

科目名	金額
経常費用	46,270,929
業務費用	22,056,583
人件費	8,627,195
職員給与費	6,270,980
賞与等引当金繰入額	441,555
退職手当引当金繰入額	144,203
その他	1,770,457
物件費等	12,346,542
物件費	6,610,110
維持補修費	691,431
減価償却費	5,015,135
その他	29,867
その他の業務費用	1,082,846
支払利息	434,405
徴収不能引当金繰入額	52,203
その他	596,238
移転費用	24,214,345
補助金等	4,401,954
社会保障給付	19,731,601
その他	80,791
経常収益	9,662,635
純経常行政コスト	36,608,293
臨時損失	256,032
災害復旧事業費	52,768
資産除売却損	39,466
損失補償等引当金繰入額	－
その他	163,798
臨時利益	409,758
資産売却益	409,754
その他	4
純行政コスト	36,454,568

※記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

※科目の内訳を一部省略しています。

### 5. 3. 3. 純資産変動計算書

---

純資産変動計算書(NW)

(単位:千円)

科目名	合計	固定資産等 形成分	余剰分(不足分)
前年度末純資産残高	119,462,483	155,648,464	-36,185,980
純行政コスト(△)	-36,454,568		-36,454,568
財源	35,960,945		35,960,945
税収等	24,706,655		24,706,655
国県等補助金	11,254,290		11,254,290
本年度差額	-493,623		-493,623
固定資産等の変動(内部変動)		-256,375	256,375
有形固定資産等の増加		4,851,106	-4,851,106
有形固定資産等の減少		-5,318,108	5,318,108
貸付金・基金等の増加		1,621,476	-1,621,476
貸付金・基金等の減少		-1,410,849	1,410,849
資産評価差額	603	603	
無償所管換等	77,221	77,221	
比例連結割合変更に伴う差額	90,214	90,091	123
その他	335	335	-
本年度純資産変動額	-325,250	-88,126	-237,124
本年度末純資産残高	119,137,233	155,560,338	-36,423,105

※記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

## 5. 3. 4. 資金収支計算書

資金収支計算書(CF)

(単位:千円)

科目名	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	41,516,248
業務費用支出	16,846,498
移転費用支出	24,669,750
業務収入	45,162,789
臨時支出	188,566
臨時収入	4
業務活動収支	3,457,980
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	5,695,092
公共施設等整備費支出	4,786,085
基金積立金支出	756,305
投資及び出資金支出	－
貸付金支出	146,211
その他の支出	6,491
投資活動収入	2,006,554
投資活動収支	-3,688,538
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	3,249,281
財務活動収入	3,900,662
財務活動収支	651,381
本年度資金収支額	420,823
前年度末資金残高	3,021,562
比例連結割合変更に伴う差額	-88
本年度末資金残高	3,442,298

前年度末歳計外現金残高	173,649
本年度歳計外現金増減額	937
本年度末歳計外現金残高	174,585
本年度末現金預金残高	3,616,883

※記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

※科目の内訳を一部省略しています。